

第6学年 国語科学習指導案

指導者 小林 弘典
場 所 6年2組 教室

1 単元名

読み深める楽しさを味わおう
教材文 「海のいのち」(立松 和平)

2 単元設定の理由

- 本学級の児童(男子16名、女子13名)は、5年「注文の多い料理店」で、物語の構成について学んだり、場面展開に即して優れた叙述について話し合ったりする経験を積んできた。6年「ばらの谷」では、物語の構成や人物の変容を手がかりに物語の主題を読み取る学習を経験している。また、「ばらの谷」では本のショーウィンドウ作りを通して、物語文を読み深める活動を行ってきた。本学級の児童は、友だちと交流することに積極的であり、交流を通して自らの考えを広げ深める楽しさを実感している。しかし、自分の考えがもちにくい児童も数名みられ、主題に迫ることが容易でない場面もみられた。また、会話文や直接的な表現のみにとらわれ、場面の様子を表す叙述など工夫された表現から登場人物の心情を読み取ることが苦手な児童も少なくない。そこで、根拠を示しながら、自分の考えを交流する場を意図的に設定することで、自分の考えをもつことのよさを実感したり、工夫された表現から登場人物の心情に気づいたりしたいものである。

- 本単元は、山場に注目して作品を読み返すことを通して、文学的な文章の論理構造を読む力をつけること、そのことによる読みの深まりを児童自身が実感することをねらいとしている。

教材文「海のいのち」は、「ある日」「～する年の夏」「何年もたったある朝」など、時を表す言葉から場面構成がとらえやすく、太一と出来事のかかわりをまとめ、作品全体を大まかにとらえることは容易である。そして、対話形式の会話文もほとんどない。登場人物の死の場面でさえも話者の語り口は感情を抑えた表現になっている。

また、物語には「山場」がある。「山場」とは、大きな出来事が起こり、中心人物の見方・考え方が揺さぶられ、中心人物の変容が見られる場面と考えている。本作品では、太一が瀬の主と出会い、もりを打たないという選択をした場面である。この場面で児童は、「追い求めてきた瀬の主をなぜ討たなかったのか」という問いをもつであろう。その内発的な問いを読みエネルギーとして高め、解決するには、何気なく読み進めていた作品の細部にまで目を向けることが重要である。例えば以下のような工夫された叙述に新たに気づく必要がある。

- ①じっとしているクエの様子
- ②太一から見たクエの目の表現
- ③太一とクエの視点の変化

6年生の児童にとって、これらのことに注目しながら物語の「山場」を読み深めることで、作品のもつメッセージに新たに気づくという読みの楽しさを味わうことができる教材である。

6 本時案（第二次 1 / 3時）

(1) 主眼 山場の描写から、太一がクエにもりをうたなかった理由を読み取り、交流することで読みを深めたり、新たな考えをもったりすることがきる。

(2) 準備物 全文一枚プリント、振り返りシート

(3) 展開

過程	学 習 活 動 ・ 内 容	○指導上の留意点 ◆評 価（評価方法）
つかむ	1 様子を表す叙述から山場の状況を捉える。 ・ 太一にとっての「夢」 ・ クエの目の描写 ・ 太一とクエの距離感	○ 太一が潜っている回数を確認し、目の描写に注目させることで、距離の変化に気づくことができようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> チャンスはあったのに、なぜ太一はクエにもりを打たなかったのか、そのわけがわかるところを見つけよう。 </div>
考える	2 太一の心情が読み取れる叙述や描写に線を引き、太一の気持ちを読み取る。 ・ 殺さないという選択をした太一の心情	○ 自分の読み取りの根拠となる叙述や描写に線を引かせることで、叙述に則して読み取ることができるようにする。 ◆ 登場人物の心内語や比喻表現に着目して、読むことができたか。 （ノート・発言）
深める	3 叙述や描写を根拠にして、読み取った内容をグループや全体で交流する。 ・ 他人の読みと自分の読みの比較	○ 根拠として選んだ叙述や描写ごとに友だちと交流することで、自分と同じ読みや違う読みに気づくことができるようにする。 ○ 叙述や描写の選択に迷っている児童には、いろいろな交流の場に参加してもよいことを伝える。 ◆ 友だちと交流することで、作品に対しての自分の考えを深めているか。 （ノート・発言）
まとめる	4 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 ・ 山場以外の場面への読み広げ	○ 本時での子どもの気づきを取り上げ、作品全体に及ぶ、象徴的な表現や対比的な表現まで読み広げたいという思いを持つことができるようにする。

○指導にあたっては、以下の点に留意する。

- ・「なぜ、太一は瀬の主にもりを打たなかったのか。」という発問をすることで、山場に着目して作品を読み進め、表現を基に読み深め広げることができるようにする。
- ・根拠を示しながら自分の考えを表出させ、交流させることで、作品のもつメッセージに新たに気づくという読みの楽しさを味わい、読みの深まりや広がりを実感できるようにする。
- ・人物関係図づくりや父や与吉じいさにとっての海について考える時間を設定することで、太一の変容と作品の主題をとらえることができるようにする。
- ・第二次で読み取った作品の主題と初発の感想を比べることで、「読みが深まった、文学的な文章の読み方がわかった」という達成感を味わうことができるようにする。
- ・単元終末には、「モチモチの木」を教材として扱い、「山場に着目して作品を読み返す」という今回の読み方を活用する。豆太の言動に着目しながら、彼の変容を読み取る活動をする。
- ・全文一枚プリントを配布することで、物語全体を俯瞰的に捉えることができるようにする。
- ・全文一枚プリントの記述に線を引いたり、抜き出したりすることで、類比・対比の方法を用いて描かれる主題につながる象徴的な表現に気づかせ、自分の考えの根拠を基に交流できるようにする。
- ・単元を通して振り返りシートを使うことにより、読みの深まりが実感できるようにする。

3 単元の目標

- 作品を進んで読み味わったり、作品から伝わるメッセージについてその根拠を示しながら交流し合ったりできる。
- 登場人物の相互関係や心情、物語の構成、場面の様子などの物語の特色について、物語の叙述や描写を基に自分の考えをまとめるとともに、それを発表し合い、広げたり深めたりすることができる。
- 文章には様々な構成があることを知り、その効果について理解することができる。

4 単元の評価規準

【言語活動】根拠を示しながら、自分の考えを交流する。		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・作品を進んで読み味わったり、作品から伝わるメッセージについてその根拠を示しながら交流し合ったりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について、自分の考えをもって読むことができる。 ・友だちと交流することで、作品に対しての自分の考えや自分の生き方についての考えを広げたり深めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章には様々な構成があることを知り、その効果について理解している。

5 単元の指導と評価の計画（全5時間 本時3 / 5）

過程	時	学 習 活 動	□評価規準（評価方法）
第一次	1	全文を通読し、「作品から届くメッセージ」を書く。	関 作品を進んで読み味わい、作品から伝わるメッセージを読み取ろうとしている。 (振り返りシート)
	2	問いを集約し、読み深めたいポイントを全体で共有する。	関 作品を読み深めるための課題をもつことができる。 (発言)
第二次	3 本時	山場の場面で、「なぜ太一はクエにもりを打たなかったのか。」読み取る。	読 友だちと交流することで、作品に対しての自分の考えを広げたり深めたりしている。 (プリントへのメモ・発言) 読 登場人物の心内語や比喻表現に着目して、読むことができる。 (ノート・発言)
	4	父や与吉じいさにとっての海とは何かを読む。	読 登場人物のせりふや心内語、比喻表現に着目して、読むことができる。 (プリントへのメモ・発言)
	5	なぜ結末の場面があるのかを考えることで、作品全体を通して読んだことを関連づける。	関 読み取った作品の主題と初発の「作品から届くメッセージ」を比べることで、読みが深まった、文学的な文章の読み方がわかったという実感が持てている。 (振り返りシート・発言) 読 叙述や描写を基に自分の考えをまとめ、作品に込められたメッセージを読み取ることができる。 (振り返りシート・発言) 知 文章には様々な構成があることを知り、その効果について理解することができる。 (振り返りシート・発言)
	6	「モチモチの木」を読み、問いに対する自分の答えをもつ。	読 叙述や描写を基に中心人物の変容を読み取ることができる。 (プリントへのメモ・発言)
	第三次	6	

- 1 単元名 読み深める楽しさを味わおう 「海のいのち」
- 2 単元目標 (本時3/5) 登場人物の相互関係や心情、物語の構成、場面や様子など、物語の特色や描写を基に自分の考えを深めたりする。
- 3 主眼 山場の描写から、太一がクエにも理由を読み取り、交わった理由を深めたり、すたり、新たな考えをきかたり、すたり、深めたりする。
- 4 評価 登場人物の心内語や比喩表現に着目して、読むことができると対話して、自分と友だちが対話して、作品を深めたり、考えを広げたりする。

なぜ太一はクエをうたなかつたのか。

夢＝瀬の主をとる

一回目 青い宝石の目

二回目 同じ所に同じ青い目
ひとみは黒いしんじゆのよう
刃物のような歯
灰色のくちびる

三回目 太一を見ていた

おだやかな目
自分に殺されたがつている
こんな感情になったのは初めてだ

泣きそうになりながら思う
↓瀬の主が父のように思えた

ふつとほほえみ
おとう、ここにおられたのですか
こう思うことによつて殺さないですんだ
↓クエをおとうに例えた
↓クエがおとうに見えた
↓殺さないですんだ

大魚はこの海のいのち
↓海のいのちをとると・・・
何も残らない
魚がとれなくなる
何か罰がある

結論
殺さない ↓ 殺せなかつた

ここに「こんな感情になつてにさせられる。」と「こんな気持ちにさせられる。」が関係している。

- 本時の流れ
1. 様子を表す叙述から山場の状況を捉える。
 - ・ 太一にとっての夢
 - ・ クエの目の描写
 - ・ 太一とクエの距離感
 2. 太一の心情は読み取れる叙述や描写に線を引き、太一の気持ちを読み取る。
 - ・ 殺さないという選択をした太一の心情
 - 自分の読み取りの根拠となる叙述や描写に線を引き、叙述に則して読み取ることができるようにする。
 3. 叙述や描写を根拠にして、読み取った内容をグループや全体で交流する。
 - ・ 他人の読みと自分の読みの比較
 - 根拠として選んだ叙述や描写ごとに友だちと交流することで、自分と同じ読みや違う読みに気づくことができるようにする。
 4. 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。
 - 本時での子どもへの気づきを取り上げ、作品全体に及ぶ、象徴的な表現や対比的な表現まで読み広げたいという思いをもつことができるようにする。